

**暫定議題**  
**第 16 回生態学的関連種作業部会会合**  
**2026 年 3 月 3－6 日**  
**ハイブリッド方式（オンライン及びキャンベラ（オーストラリア））**

水色でハイライトした議題／副議題項目にかかる議論は会合の開会前に文書通信により開始される予定であることに留意されたい。

## 1. 開会

### 1.1 議題の採択

### 1.2 文書リストの採択

### 1.3 ラポルツアーの任命

メンバーは、議題項目 4、5、7 及び 10 にかかるラポルツアーを指名するよう要請されている。さらに、各文書の発表者に対しては、会合報告書に盛り込むことができるよう、自身が説明した文書（年次報告書は除く）を要約したパラグラフを提供するよう要請される。

## 2. 年次報告書

メンバーは、合意されている報告書テンプレートに従って ERSWG に対する年次報告書を作成し、これを提出する必要がある。報告書にはテンプレートが定める全ての情報が含まれていることが期待される。参加者は会合前に報告書を読了しているものと見なし、本議題項目は、報告書に関する明確化を行うための質疑応答に当てる。

### 2.1 メンバー

メンバーの国別報告書に対する質問はまず事前協議において取り扱われるが、会合期間中に追加的なフォローアップを行うための時間が与えられる。また、インドネシアは、観察されていない漁業由来のデータ及びインドネシアの遵守モニタリング制度に関する ERSWG 15 からの質問に対する回答を求められる予定である。

### 2.2 ERSWG データ交換に関する事務局からの報告

事務局は、年次 ERSWG データ交換で得られたデータの概要を提供する<sup>1</sup>。また本議題項目では、データ交換プロセス及び関連情報に関する変更についても検討する機会を提供する。

## 3. ERSWG に関連する他の機関の会合報告及び／又は結果

CCSBT の ERSWG 会合における長期的なオブザーバーの地位を有する全ての機関 (<https://www.ccsbt.org/ja/content/attendance-meetings-observers> を参照) は、会合に参加し、及び会合に対する報告を行うよう招請されている。また、メンバー及びオブザーバーは、ERSWG 会合に参加していない機関からの関連する会合報告書を提示する。ERSWG は、これらの報告書における関連勧告について検討する予定である。

## 4. ERSWG 15 による作業計画の進捗状況のレビュー

ERSWG 15 の作業計画は別紙 A のとおりである。ERSWG は、当該作業計画の進捗状況のレビューを行う。

---

<sup>1</sup> これらのデータを独自に解析したいメンバーは、これらのデータを取りまとめたエクセルシートを CCSBT ウェブサイト「プライベートエリア」の「ERSWG データ交換」セクションから入手することができる。このデータを高度に集計した公開バージョンは、[https://www.ccsbt.org/userfiles/file/data/ERSWG\\_Data.xlsx](https://www.ccsbt.org/userfiles/file/data/ERSWG_Data.xlsx) から入手可能である。

## 5. ERS に関する情報及び助言

この議題項目は、SBT 漁業によって生じる ERS へのリスク及び SBT の資源状況に対する ERS の影響に関する評価を進めるとともに、リスク削減のために必要と考えられるあらゆる措置に関する助言を行うための重要な議題項目である。メンバー及びオブザーバーは、以下の議題項目に関して、会合前に文書を作成し、これを提出することが要請されている。

### 5.1 海鳥類

#### 5.1.1 資源状況に関する情報

事務局は、従前の指示に従い、ACAP 及びバードライフ・インターナショナルに対し、SBT 漁業において捕獲される可能性がある海鳥類に関する最新情報（個体群状態の概要及び混獲緩和措置のレビューを含む）を提供するよう要請する予定である。

#### 5.1.2 生態学的リスク評価

ERSWG は、2025 年 3 月 7–11 日にハイブリッド会合として開催された ERS 技術部会会合の結果を踏まえて作成され、2025 年 10 月 9 日の EC 32 により採択された助言及び SEFRA 技術報告書を含む SEFRA に関する共同作業の成果について検討する予定である。またメンバーは、（利用可能な場合は）その後の全世界 SEFRA 評価から得られた SEFRA の結果についても検討する可能性がある。本議題項目での検討に当たっては、CCSBT の管理権限は SBT 漁業に限定されていること、及び現在において CCSBT の ERS 措置は他のまぐろ類 RFMO により採択された措置を通じて実施されていることに留意する必要がある。

#### 5.1.3 管理措置の評価及び助言

本議題は、ERSWG が現行の措置に関するレビューを行うとともに、必要と考えられるあらゆる変更について助言を行うための常設議題項目である。SEFRA の結果に基づく管理助言を策定する上で最も関連がある海鳥に関する複数年戦略の行動事項は以下のとおりである（ERSWG 16 における重要性を踏まえて全文を再掲する）。

**1A:** 海鳥個体群に対する SBT 漁業操業の影響の水準を低減するため、以下を含む（ただし、これらに限定されない）SBT 海鳥混獲目標に合意する。

- a. ノミナル報告海鳥混獲率に基づく目標
- b. SEFRA の結果に基づく目標

**1C:** 船団の違い及び海鳥類の分布を考慮しつつ、全体的な海鳥の死亡の削減の文脈で 2005 年頃にまぐろ類 RFMO が導入した海鳥 CMM の有効性を評価し、改善できる分野を特定する。当該評価の結果をまぐろ類 RFMO 横断的に共有し、将来の評価の基礎として活用する。

**1D:** 海鳥個体群の状況、SBT 漁業との分布域の重複、及びそれらの種の死亡に対する SBT 漁業の影響度を考慮しつつ、優先度の高い種のリスト及び各種に対応する管理目標に合意する。

**1F:** 以下により、予防的アプローチを考慮した高リスク海域にかかる頑健な定義を定める。

- a. 高リスク海域の定義を定める。
- b. 同定義に合致する海域を特定する。
- c. 各海域におけるリスクの性質を把握する。
- d. これらのリスクを削減することを目的に調整した措置を策定する。

#### 5.1.4 海鳥の種同定

海鳥の種同定にかかる実務又は方法論に関する改善についてアップデートを行う。海鳥に関する複数年戦略の行動事項のうち、海鳥の種同定に関して最も関連性の高い事項は2E及び2Hである。オーストラリアは、混獲により死亡した海鳥類からの羽根サンプルの収集及び写真撮影にかかる標準的プロトコルに関する文書を提出することが期待されている。

#### 5.1.5 海鳥に関する CCSBT 複数年戦略の進捗状況

EC 31 は、2024 年の ERSWG 15 により勧告された海鳥に関する改訂複数年戦略を採択した。この小議題項目において、ERSWG は上記の小議題項目 5.1.1 - 5.1.4 では網羅されていない行動事項の進捗状況をレビューするとともに適切な行動を勧告することが期待されている。

### 5.2 さめ類

#### 5.2.1 資源状況に関する情報

メンバーは、CCSBT に関連するさめ種の資源状況に関する情報を提供すべきである。また事務局は、他の関連する RFMO におけるさめ類に関する情報のアップデートを提示する予定である。

#### 5.2.2 ERS 死亡数の推定及びこれに伴う不確実性

本議題項目では、さめの総死亡数を推定する手法について検討するとともに、メンバーから提出された死亡数の推定値についてレビューする機会を提供する。

#### 5.2.3 生態学的関連種の混獲に関する戦略の進捗状況

EC 32 は、海鳥類以外の非漁獲対象種に重点化した CCSBT 生態学的関連種の混獲に関する戦略を採択した。ERSWG は、この小議題項目において、ERS 混獲戦略に規定された各行動項目のうち上記の小議題項目 5.2.1 及び 5.2.2 では網羅されていない事項についてレビューするとともに適切な勧告を行うことが期待されている。

### 5.3 その他の ERS

メンバー及びオブザーバーは、うみがめ類や海棲哺乳類といった ERS に対する SBT 漁業の影響に関する情報を提供しよう奨励されている。またメンバーは、ERS 混獲戦略のうちその他の ERS に関する進捗状況をレビューすることが奨励されている。

## 6. 2023－2028 年 CCSBT 戦略計画

EC 30 は、2021 年 CCSBT パフォーマンス・レビューからの勧告を踏まえた 2023－2028 年を対象とする改訂 CCSBT 戦略計画を採択した。事務局は、戦略計画のうち ERSWG に関連する事項についてレビューを行う予定である。本議題項目での検討の結果は、戦略計画の行動事項の進捗状況について事務局から EC に報告を行う際の基礎情報となる。メンバーは、以前に合意された報告テンプレートを更新し、ERSWG に対して割り当てられた行動事項の進捗状況にかかる評価結果を提示しよう要請されている。

### 6.1 キャパシティ・ビルディングに関するニーズ評価

2024 年の CCSBT 31 は、特に発展途上のメンバーにおける主要分野のパフォーマンスを改善するためのニーズの優先順位付け及び効果的なキャパシティ・ビルディング・イニシアティブの実施を目的とする CCSBT キャパシティ・ビルディング作業計画を採択した。ERSWG はニーズ評価を実施することが期待されており、事務局は ERSWG 会合に対して予備的な評価結果に関する文書を提出する予定である。

## 7. 電子モニタリング

本議題項目は、メンバーが ERS の文脈での EM の進展に関してメンバーが議論を行うための常設議題項目である。

### 7.1 EMS データの CCSBT データ要件への取り入れに関する検討

2024 年において、ニュージーランドは人によるオブザーバー又は映像記録の監査により得られたデータを全く提出しなかった。これは現行の CCSBT 報告要件の非遵守にあたる。CC 20 において、ニュージーランドは、CCSBT の制度に EMS データを取り入れるための作業が必要であり、この点について休会期間中に事務局及び関心を有するメンバーと協議していく考えであることを述べた。

## 8. 教育及び広報活動

海鳥措置の実施を強化するためのプロジェクトは FAO の資金により 2023 年 2 月から開始されており、2026 年 3 月までに終了する予定である。ERSWG に対しては、本プロジェクトの最終進捗状況報告が行われる予定である。

## 9. 気候変動

2025 年の EC 32 において採択された CCSBT の ERS 混獲戦略では、今後の ERSWG 会合において気候変動を常設議題項目とすることが規定されている。メンバーは、このテーマにかかる ERSWG の議論に資するように文書を提出することが奨励されている。

## 10. 2027 年 ERS 技術部会の議題

ERSWG は、2027 年 ERS 技術部会の開催の必要性について検討するとともに、開催するのであれば議題案（会合のタイミング及び開催方式を含む）について検討するよう要請されている。

## 11. 将来の作業計画

ERSWG は、これまでの議題項目の中で提起された課題及び検討を要する追加的な作業項目を踏まえた改訂作業計画を策定する予定である。

## 12. その他の事項

### 13. ERS 問題に関する CCSBT 補助機関への検討の付託

本議題項目は、ERSWG が CCSBT の他の補助機関に対して特に検討を付託すべきと考える事項に関するものである。

### 14. 拡大委員会に対する勧告及び助言

ERSWG は、これまでの議題項目で提起された事項を踏まえて拡大委員会に対する勧告及び助言のリストを策定する予定である。

## 15. まとめ

15.1. 次回の ERS 技術会合／対面による ERSWG 会合の開催時期及びトピックに関する勧告

15.2. 会合報告書の採択

15.3. 閉会

## 別紙 A

### ERSWG 15 作業計画

(当初の作業計画に、各行動事項の ERSWG 16 のいずれの議題項目において検討されるかを示す欄が追加されている。行動事項の内容に対応するより適切な議題項目がない場合、それらの作業計画事項にかかる議論は議題項目 4 で取り扱われる。)

活動	時期	リソース	ERSWG 16 議題項目
トリラインの新設計に関する調査プロジェクトが完了次第、その結果を共有する。	調査が完了次第	オーストラリア	議題項目 2.1
インドネシアは、国別報告書に対する他のメンバーからの質問に回答する。	速やかに	インドネシア	議題項目 2.1
ERSWG 15 報告書別紙 5 (SEFRA 作業計画 (必要なリソースを含む) ) に基づき、SEFRA に関する共同作業を進捗させる。	ERSWG 15 報告書別紙 5 の記載のとおり	メンバー、ACAP、BLI、事務局	EC 32 により SEFRA が採択され完了済 「グローバル」 SEFRA の結果に留意
野鳥の個体群に影響を及ぼす人畜共通感染症 HPAI H5N1 に関連して、海鳥と漁船乗組員の両方に対するリスクを最小化するにはどのように海鳥を取り扱うのが最善かに関する安全ガイドラインが策定され次第、これを公表する。	作業が完了次第	ACAP	議題項目 5.1.4
EC に対し、戦略計画の進捗状況に関する ERSWG からの報告書を提出する。	EC31	事務局	完了
ERS 及び混獲に関する行動計画によって網羅される非漁獲対象さめ種のリストを策定する。	2025 年 ERS 技術部会	メンバー	EC 32 により ERS 混獲戦略が採択され完了済
EDE において捕捉する混獲緩和措置の一つとして鈎針被覆装置を追加する。	EC31	事務局	完了
ERSWG 15 報告書別紙 8 に基づき、海鳥複数年戦略の行動事項を進捗させる (休会期間中の作業部会の会合開催を含む) 。	ERSWG 15 報告書別紙 8 の記載のとおり	メンバー、ACAP、BLI、事務局	議題項目 5.1 休会期間中の SEFRA 技術グループ及び 2025 年 ERS 技術部会は CCSBT SEFRA モデルを最終化した。

メンバーは、海鳥措置の実施を強化するため、FAOの資金による海鳥プロジェクトを活用する。	2024-2025	メンバー	計画されていたエレメント1-3の行動項目については完了  エレメント4は実施中、2026年3月に完了予定
--	-----------	------	--